

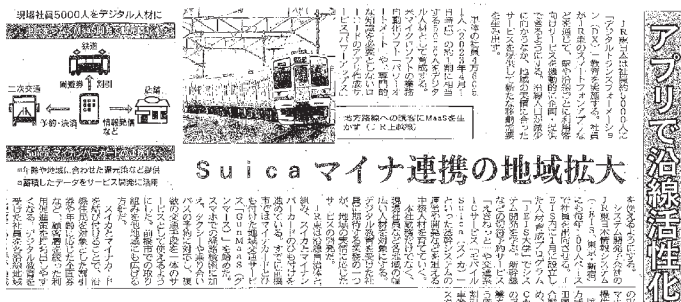
ジョブローテーション、乗務員勤務制度改革、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

JR東5000人にDX教育

融合化・「IT企業」化攻撃に反対の声を

2023/9/16 日経新聞

JR東、5000人にDX教育



JR東は4万6千人の社員のうち5千人を「デジタル人材」として育成すると発表しました。システム開発子会社のJEIS（JR東日本情報システム）への出向も毎年100人のペースで行うとしています。

現場社員も対象に

対象とされるのは本社社員だけでなく、現場社員も含む「幅広い人材」です。スイカなどの基幹システムの運営や開発を担える人材となることが求められます。

「沿線活性化」を掲げて、スイカとマイナカードとのひもづけも始められています。タクシーやバスとの連携や、「沿線の住民対象」「年齢に応じた企画券」などで利用を促進するとうたわれています。

JR東は「鉄道を持つIT企業になる」と打ち出してきました。また、昨年

8月末に「鉄道人員4千人削減」「非鉄道部門へ再配置」「転籍・副業促進」の方針を明らかにしました。

今回の施策はその「再教育して非鉄道部門に配置する」という攻撃です。

しかし、鉄道業務は多くの列車を、気象条件なども判断しながら運行しなければなりません。日々、車両検修、保線、電力などのメンテナンスも欠かせません。24時間、365日にわたる業務です。

それを「鉄道ありきで考えるな」「価値創造」「人ならではの業務を」などといって軽視すれば、鉄道の安全は守られません。

業務融合・強制配転反対

職場ではジョブローテーションによる強制配転が次々に行われ、「その他の時間」で駅業務を行わせるといったことが始められています。

乗務員は鉄道業務の中心の職種です。日々、不規則な勤務の中で乗務し、安全を守っているのです。その乗務員を「何でも屋」のように扱って、ないがしろにするなど絶対に許せません。

攻撃を打ち破る力は、職場からの声と闘う労働組合にあります。業務融合・「IT企業化」の攻撃に反対の声を上げよう。